

サッポロ、麒麟、アサヒ、サントリーの生成 AI への取り組みについて、以下の観点で比較検討します。

- 導入の目的・背景 (DX 戦略の一環か、業務効率化か、創造性向上かなど)
- 導入規模・対象 (全社展開か、一部部署限定か、試験導入段階か)
- 活用事例 (文書作成支援、企画立案、営業・マーケティング支援など)
- 技術・システム (使用している AI モデル、プラットフォーム、独自開発か外部ツール活用か)
- 効果・成果 (工数削減、業務改善、社員の満足度など)
- 課題・リスク対策 (情報漏洩対策、教育体制、導入の難しさなど)
- R&D (研究開発)・知的財産での活用事例 (新商品の開発支援、特許調査・分析など)

これらの観点で、各社の取り組みを比較し、最新の情報をまとめます。結果がまとまり次第、お知らせします。

## 大手飲料 4 社 (サッポロ、麒麟、アサヒ、サントリー) の生成 AI 活用比較

### 導入の目的・背景

- サッポロ: 中期経営計画(2023~2026 年)で DX を経営基盤の重点項目に掲げ、業務プロセス改革や価値創造の加速を狙って生成 AI の全社展開に踏み切りました ([サッポログループ独自の生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。生成 AI により業務の質・生産性向上や効率化を図り、新たな商品開発手法の確立などイノベーション創出につなげることが目的です ([生成 AI を麒麟ビールのマーケティングに実装する検証を開始 | 2023 年 | 麒麟ホールディングス](#)) ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。外部環境 (ビール市場成熟や競争激化) への対応と内部改革の一環として、DX 戦略の中で生成 AI を「全社員の相棒」に位置付けました ([サッポロホールディング](#)

[スが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#)。


- **キリン:** 人口減少や少子高齢化による人手不足など社会課題への対応策、そして企業競争力強化の切り札として生成 AI を捉え、全社的な価値創造の時間創出を目指しています ([ビジネス現場での生成 AI 活用を目的とした「KIRIN BuddyAI Project」を始動 | キリンホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。長期経営構想「KV2027」においてデジタル技術活用を掲げ、業務効率化と新価値創出の両立を図る戦略です ([AVILEN、キリンホールディングスに生成 AI 研修を提供 ~社員の生成 AI 活用スキルを向上し月 2,200 時間の労働時間削減に成功~ | NEWS\(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#))。特に生成 AI の急速な普及に乘じ、「今後企業競争力に不可欠な存在」と位置づけて積極導入を決定しました ([ビジネス現場での生成 AI 活用を目的とした「KIRIN BuddyAI Project」を始動 | キリンホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。
- **アサヒ:** DX の一環として最新の生成 AI 技術をいち早く業務に取り入れ、競争力強化につなげる方針です ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。研究開発現場では過去の膨大な技術資料から目的の情報を素早く見つけ出し、本質的な R&D により多くの時間を充てることを狙いとしています ()。また社員一人ひとりが日常業務で生成 AI を活用できる環境を整備し、グループの知見共有による商品開発力強化や業務効率化を目的としています () ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。
- **サントリー:** 創業者の言葉「やってみなはれ」の精神で、新技術である生成 AI の業務活用に 2023 年 5 月から着手しました ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。独自の社内 ChatGPT 環境「ガウディ」を開発・提供し、社員の創造性発揮や業務効率向上を支援する狙いがあります ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#)) ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。生成 AI を“業務パートナー”として位置付け、日々の意思決定や企画に新たな発想を取り入れ競争優位を高めることが背景にあります。

## 導入規模・対象

- サッポロ: 2025年2月よりグループ全社員約6,000名を対象に独自生成AIツール「SAPPORO AI-Stick」(サッポロ相棒)を導入しました ([サッポログループ独自の生成AIツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。全社一斉展開であり、管理部門からマーケティング・開発現場まで幅広く利用可能です。導入当初から全員が使える体制を整え、現在は試行段階を越えて本格運用フェーズに入っています。
- キリン: 2024年11月にまずマーケティング領域の社員約400名に「KIRIN BuddyAI for Marketing」を先行導入し、順次営業や研究開発など国内グループ全従業員約1万5,000人へ展開予定です ([ビジネス現場での生成AI活用を目的とした「KIRIN BuddyAI Project」を始動 | キリンホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([キリンHD 25年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成AI導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。段階的導入で、2025年末までに全社員が業務特化型の生成AIツールを利用できる計画です ([キリンHD 25年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成AI導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#)) ([キリンHD 25年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成AI導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。加えて、生成AI活用スキル研修にはグループ各社から600名以上が参加し、全社への浸透を進めています ([AVILEN、キリンホールディングスに生成AI研修を提供 ~社員の生成AI活用スキルを向上し月2,200時間の労働時間削減に成功~ | NEWS\(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#))。
- アサヒ: 研究開発部門の一部(主に研究所)で2023年9月から生成AI搭載の社内情報検索システムを試験運用開始( )。またホールディングス本社全部署から選抜した約300名に対し、GPT-4を用いた社内チャットボット「Asahi Chat」を試験導入しています ([生成AIを活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。さらに、グループ横断プロジェクト「ジェネレーティブAI『やってTRY』」では各社から公募の約100名が参加し、様々な業務での生成AI活用を試行中です( )。加えて国内事業会社であるアサヒグループジャパンでは、クラウドストレージ基盤のBoxと連携した生成AI (Box AI)を全社展開しており、幅広い従業員が非構造データ検索などに利用できるようにしています( )

- **サントリー:** サントリーグループ国内従業員約 1 万 9,000 名を対象に、独自の生成 AI チャットツール「ガウディ」を展開しています ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。ホールディングスおよびグループ各社の社員が利用可能で、導入から半年程度で多くの社員が日常業務に活用する状況です ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。導入初期は経営管理部門など中心でしたが、現在は営業・マーケティング・開発など含め全社規模で利用推進されています。

## 活用事例


- **サッポロ:** マーケティング部門では生成 AI により顧客の購買履歴・SNS データ等を分析し細分化したセグメントごとに最適なマーケティングメッセージや広告クリエイティブを自動生成する試みを行っています ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。商品開発部門では、日本 IBM と連携して開発した生成 AI システム「N-Wing 」に過去の商品配合データやレシピを学習させ、新商品のコンセプトに合った原料組み合わせや配合比率を瞬時に提案させる活用をしています ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。また、「AI-Stick」による社内問い合わせ対応や各種文書の下書き作成・要約作成など、日常業務の支援にも幅広く活用されています。
- **キリン:** マーケティング領域では「BuddyAI」に用意したテンプレートを使い、新商品のコンセプト立案やプロモーション施策立案でアイデア出しを支援したり、調査レポートの要約・分析に生成 AI を活用しています ([キリンHD 25 年未までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。実例として、RTD 商品(氷結など)の開発では顧客インタビューから得た生の声を学習させた生成 AI でユーザーペルソナを構築し、仮想顧客に商品コンセプトやフレーバーの感想を質問してインサイトを抽出するという手法を試験導入しました ([生成 AI をキリンビールのマーケティングに実装する検証を開始 | 2023 年 | キリンホールディングス](#))。今後、営業現場での提案書作成支援や社内資料の自動要約、R&D 部門でのアイデア創出支援など、順次適用範囲を広げる計画です ([キリンHD](#)

[25 年未までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#) )。

- **アサヒ:** 研究開発では技術報告書や論文、特許資料など社内に点在する大量の文書を横断検索し、生成 AI で要約結果を表示する社内ポータルを構築しました ( [生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#) )。これにより研究者は必要情報の迅速把握が可能となり、事務作業を削減しています。商品企画では生成 AI による発想支援にも着手しており、例えば Bing Chat (Microsoft 365 Copilot) を使ったアイデア出しワークショップを開催し、新商品コンセプト立案に役立てる取り組みも始まっています ( [生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#) )。他にも、「Asahi Chat」を用いて業務メール文面の作成支援や会議議事録の要約、資料の英訳など、各部門で日常業務の効率化に生成 AI を利用するケースが増えています。
- **サントリー:** 社内専用 ChatGPT「ガウディ」は社員の“相談役”として企画書や提案書のたたき台作成、プレゼン資料のアイデア出し、議事録の要約など幅広い業務で活用されています。特に文章作成・要約や翻訳など汎用的な用途から使われ始め、社員が日常的に対話形式で業務上の課題を AI に相談し解決策のヒントを得るといった使い方が浸透しています。マーケティングの分野でも生成 AI の活用事例があり、例えばサントリー食品インターナショナルでは清涼飲料「C.C.レモン」の擬人化キャラクターを生成 AI で制作し、顔・衣装・声・台詞のすべてを画像生成 AI・音声生成 AI・文章生成 AI で創り上げるプロモーションを展開しました ( [サントリー食品、生成系 AI・文章生成 AI を用いて「C.C.レモンの擬人化キャラクター」を制作](#) ) ( [サントリー食品、生成系 AI・文章生成 AI を用いて「C.C.レモンの擬人化キャラクター」を制作](#) )。このように、社内業務支援のみならずコンテンツ制作などクリエイティブ領域でも生成 AI の可能性を試しています。

## 技術・システム

- **サッポロ:** AWS の生成 AI プラットフォーム「Amazon Bedrock」を用いて自社向けに構築したのが「SAPPORO AI-Stick」です ( [サッポログループ独自の生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#) )。テキストベースの対話機能と画像生成機能を備え、社内のナレッジデータベースと連携することで社内情報を反映した回答生成も可能な仕組みになっています (

[「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。PoC 段階ではエクサウィザーズ社の「exaBase 生成 AI」も試験利用し、効果検証を経て独自環境に移行しました ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。R&D 向けの「N-Wing 」は IBM の協力で開発されており、大規模言語モデルに自社のレシピ・原料データを学習させた専門特化システムとなっています ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。

- **キリン:** 全社展開する「KIRIN BuddyAI」は用途別に最適化したプロンプトテンプレート集と生成 AI モデルを組み合わせた業務特化型ツールです ([キリン HD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。社内で ChatGPT を安全に活用できる環境を独自に構築しており、各種生成 AI サービスの社内検証も行った上で導入されています ([キリンHD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。プラットフォームとしては Google Cloud の Vertex AI への移行を進めており、これによりツール利用コストを 80%削減できたとの報告もあります ([キリンビジネスシステム株式会社様 - 導入事例 - 株式会社 G-gen\(ジージェン\)](#))。生成 AI モデルそのものは外部の大規模言語モデル(例: OpenAI GPT シリーズなど)を活用しつつ、社内データとの連携やセキュリティ担保を図ったシステム構成です。
- **アサヒ:** マイクロソフトの Azure OpenAI Service が提供する GPT-4 を中核に据え、自社向けにカスタマイズした社内チャットボット環境「Asahi Chat」を構築しています ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。研究所向け検索システムでは、Azure Cognitive Search とデータベース(Cosmos DB)で社内の PDF や Word、PowerPoint 等を一括検索し、Azure OpenAI を通じて要約を自動生成する「saguroot」ベースのシステムを導入しました ( )。これらクラウド AI 基盤により、高度な生成 AI モデルをセキュアに活用しています。さらに、クラウドストレージの Box 上で直接 GPT 系 AI が使える「Box AI」も導入し、社内の非構造化データに対する質問応答・要約をセキュアに実現する仕組みも併用しています ([生成 AI が無制限に利用可能な Box AI、国内での導入が加速 | 株式会社 Box Japan のプレスリリース](#))。

- **サントリー:** サントリー独自の生成 AI チャットツール「ガウディ」は、社内環境で利用可能な ChatGPT ベースのシステムです ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。具体的なモデル名は公表されていませんが、OpenAI の大規模言語モデル (GPT-3.5/GPT-4) を API 経由で社内クラウドに組み込み、安全管理された環境下で動作していると推測されます。ギブリー社の支援の下で開発・展開されており ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))、ブラウザ経由で社員がアクセスできる社内 Web アプリとして提供されています。画像生成や音声生成は必要に応じ外部ツールを使うケースもありますが、基本はテキスト生成 AI によるチャットインターフェースが中心です。

## 効果・成果

- **サッポロ:** PoC (概念実証) では約 700 名のテスト利用で年間 1 万時間の業務削減効果を見込む結果が得られました ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。実際の全社導入により、報告書作成やデータ分析の時間短縮、アイデア創出の迅速化など定量・定性的な効果が現れ始めています。生成 AI 活用によって生まれた時間をマーケティング戦略立案や新商品開発に充てることで、付加価値の高い業務へシフトする動きが出ています。導入から間もないため定量的な全社成果は今後の測定となりますが、社員からは「調べ物や資料作成が楽になった」「発想の幅が広がった」といった前向きな声が聞かれます。
- **キリン:** マーケティング領域 400 名への導入だけで年間 29,000 時間以上の時間創出効果が見込まれており ([ビジネス現場での生成 AI 活用を目的とした「KIRIN BuddyAI Project」を始動 | キリンホールディングス株式会社のプレスリリース](#))、実際に生成 AI 活用研修を受けた社員では月計 2,200 時間の労働時間削減を達成しました ([AVILEN、キリンホールディングスに生成 AI 研修を提供 ~社員の生成 AI 活用スキルを向上し月 2,200 時間の労働時間削減に成功~ | NEWS\(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#))。一人当たり月 3.6 時間程度の削減につながっており、浮いた時間でより創造的な業務に取り組んでいます ([AVILEN、キリンホールディングスに生成 AI 研修を提供 ~社員の生成 AI 活用スキルを向上し月 2,200 時間の労働時間削減に成功~ | NEWS\(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#))。研修受講者からは「報告書のたたき台作成」や「議

事録の要約」「日々更新される営業日報から好事例を抽出」といった用途で成果があったとの報告があり、全社で 450 件以上の具体的活用事例が蓄積されました ([AVILEN、キリンホールディングスに生成 AI 研修を提供 ～社員の生成 AI 活用スキルを向上し月 2,200 時間の労働時間削減に成功～ | NEWS \(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#))。これにより社員の生産性向上だけでなく、DX への意識醸成や業務改善の好循環が生まれています。

- **アサヒ:** 研究所向けの情報検索システムではユーザーの約 2/3 が「検索性が向上した」と回答し、多くが従来比 50～75%の時間で必要情報にアクセスできるようになったと評価しています ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#))。これにより、年次の若手研究員でも過去の知見を素早く把握して研究に活かせるようになり、結果として新商品企画や研究のスピードアップが期待されています ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#)) ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#))。また、GPT-4 の社内利用により報告書や企画書のドラフト作成時間が短縮され、生産性が向上したとの声があります。情報共有の強化により部署間連携もスムーズになり、グループ全体で知見を資産として活用する基盤が整いつつあります ( )。
- **サントリー:** 定量的な成果指標は公表されていませんが、導入直後は日常的な利用者とそうでない人の差があったものの、啓発セミナー後にはガウディの 1 日あたり利用者数が 2 倍に増加し、社内での活用が一気に進んだことが報告されています ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社 ギブリーのプレスリリース](#))。社員からは「質問を投げかけるだけでアイデアのヒントが得られる」「資料作成の初期アウトライン作成がスピーディになった」など効果を実感する声が上がっています。特に若手社員にとっては業務知識習得や提案書作成の支えとなり、生産性向上とスキルアップ双方の成果につながっていると考えられます。全社的な生成 AI 活用により、新規提案件数の増加や意思決定の迅速化といった波及効果も期待されています。

## 課題・リスク対策

- **サッポロ:** 全社へ一斉導入したことで、社員のリテラシーレベル差への対応が課題でしたが、2018 年から続けている「全社員 DX 研修」を通じてデジタル活用スキルの底上げを図り、2023 年度は生成 AI に特化したオリジナル研修を



実施しました ([サッポログループ独自の生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。研修では AI-Stick のハンズオンやプロンプト活用法を教え、活用事例を社内ポータルで共有することで習熟を促しています ([サッポログループ独自の生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。情報漏洩リスクについては、社内データ連携機能を備えた自社環境を用いることで機密情報を外部に出さず AI 活用できるようにしています ([サッポログループ独自の生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。今後は部門特化事例の創出やプロンプトの高度化を進める一方で、誤情報 (AI の幻覚) への対処やアウトプットのチェック体制整備も検討課題です。

- **キリン:** 多様な業務で生成 AI を使ってもらうための工夫として、用途別テンプレートを 15 種類用意し、初心者でも迷わず活用できるようにしました ([キリン HD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。これにより「使い方が分からない」という障壁を下げています。また、全社ガイドラインやナレッジ共有を通じて適切な利用と情報管理を周知しており、内部環境での ChatGPT 活用やアクセス制限により機密情報の漏洩リスクにも配慮しています ([キリン HD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。一方で、当初は部門ごとに活用度合いの差が出る可能性があり、現在マーケティング部門から他部門へ展開を進める中で、各領域に即したプロンプト事例の蓄積と教育が課題です。研修やハンズオン (計 600 名以上参加) ([AVILEN、キリンホールディングスに生成 AI 研修を提供 ~社員の生成 AI 活用スキルを向上し月 2,200 時間の労働時間削減に成功~ | NEWS\(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#)) を継続して実施し、利用促進とリテラシー向上に努めています。
- **アサヒ:** グループ全体で生成 AI 利用のガイドラインを策定し、「機密情報や個人情報を用意に入力しない」「生成結果をそのまま外部公開しない」など注意点を明確化して社員に周知しています ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#))。DX 統括部を中心に各社で勉強会を開き、ChatGPT や Bing Chat の使い方・留意点を教育することでリスクを低減しています ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#))。技術的にも「Asahi Chat」では入力データを蓄積せず都度削除する仕様とし、社外への二次提供も行わないことで情報管理に配慮しています (

[術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。現在は試験導入段階のシステムが多く、精度面・誤回答への対処が課題として残りますが、小規模から段階的に展開することで問題発生時の影響を抑えつつ改善を進めています。

- **サントリー**: 社員の利用頻度にばらつきが見られたため、ギブリー社と協力してオンラインセミナー「わかる！使える！ChatGPT セミナー」を開催し、他社事例や効果を共有して社員の積極利用を促しました ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#)) ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。これにより社内の心理的ハードルを下げ、利用者が大幅に増加しています ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。リスク対策としては、社内専用環境「ガウディ」でやり取りが完結するため機密情報が外部に漏れにくい体制を整えています ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#))。もともと、生成 AI の回答の正確性保証や、業務での過信による判断ミス防止といった課題には引き続き注意が払われており、今後はプロンプト作成研修 ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#)) や管理職向け研修も行ってガバナンスと積極活用の両立を図る予定です。

## R&D(研究開発)・知的財産での活用事例

- **サッポロ**: 新商品開発において、IBM と開発した生成 AI システム「N-Wing ★」を活用しています ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。ビールや飲料の過去の配合データ・レシピ・原料情報など膨大な社内知見を学習させ、商品コンセプトに合致する原料や味の組み合わせを AI が瞬時に提案します ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#))。これにより開発担当者は試行錯誤の初期段階を効率化でき、企画の選択肢拡大や開発期間短縮につながっています。知的財産分野では、過去商品のノウハウを AI が内包して提案できるため、社内

技術資産の有効活用という側面があります。特許調査への直接活用事例は公表されていませんが、関連技術文献の要約やアイデア創出支援など間接的に R&D 効率を高める用途が期待されています。

- **キリン:** 商品開発プロセスで生成 AI を活用した「AI ペルソナ」手法を導入しました。具体的には、RTD 飲料の開発で顧客インタビュー結果を学習した AI ペルソナを構築し、その仮想顧客に新商品案へのフィードバックを尋ねることで、隠れたニーズや改善点を抽出しています ([生成 AI をキリンビールのマーケティングに実装する検証を開始 | 2023 年 | キリンホールディングス](#))。これまで人手で行っていた消費者インサイトの発掘を AI が高速に行える点で画期的です。研究開発部門への展開も計画しており、将来的には研究報告の自動要約や論文・特許情報の分析支援などにも応用を広げる構想です。知的財産活用では、社内に蓄積した研究データを生成 AI で横断的に検索・要約することで、過去の特許出願や論文から新製品開発のヒントを得るといった使い方も検討されています(※具体事例は未公表)。
- **アサヒ:** 研究開発部門向けの技術情報検索システムは、ある意味で知的財産の社内共有基盤となっています。社内の研究報告書・特許資料・論文などを一括で全文検索し、生成 AI で要約・抽出できるため、過去の R&D 成果や特許情報を横断的に活かせるようになりました () ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#))。これにより「あの技術を応用できないか？」といった発想が生まれやすくなり、グループ内のオープンイノベーション促進につながっています。今後は商品企画段階でも生成 AI の活用を進めており、実際に社内ワークショップで新商品アイデア出しに Bing Chat を試用する取り組みも始まっています ([生成 AI を使った技術情報検索システムを開発 R&D 部門の事務作業削減へ アサヒビール株式会社 | PROMPTY](#))。特許調査・分析への直接適用事例は明らかにされていませんが、技術動向の要約や先行技術調査に生成 AI を用いることも視野に入れていると見られます。
- **サントリー:** 現時点でサントリーによる生成 AI の R&D 分野での具体的活用事例は公には多く語られていませんが、社内のデザイン部門と富士通デザイン部門が合同で生成 AI 活用のワークショップを開催するなど、研究・商品開発への応用検討が進められています ([Fujitsu × SUNTORY 生成 AI を活用した交流ワークショップ](#))。このワークショップでは生成 AI による新しいデザイン発想や開発プロセス革新について議論されており、将来的にパッケージデザインや製造プロセス最適化への AI 活用などにつながる知見を得ています。社内では蓄積された製法データや品質データを AI で解析し、新たな商品コンセプト創出に役立てる検討も行われている模様です。知的財産面では、社内の

アイデア提案制度に生成 AI を組み合わせて発明提案をブラッシュアップする、あるいは契約書・特許文書のドラフト作成支援に活用する可能性も考えられますが、具体例はこれからの展開に委ねられています。

各社とも生成 AI の導入によって得られた知見を踏まえ、更なる活用領域の拡大を図っています。今後は、業務効率化のみならず新価値創造や知的財産の有効活用といった面で、各社の生成 AI 活用が一層進展することが期待されます。

**参考文献・情報源:** 各社プレスリリース、ニュース記事、導入事例インタビューなど  
([サッポログループ独自の生成 AI ツール「SAPPORO AI-Stick」の導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([サッポロホールディングスが生成 AI を全社員に導入した理由からユースケース検討 | みずペー | 生成 AI 実装の現場から | 失敗談と成長の記録](#)) ([ビジネス現場での生成 AI 活用を目的とした「KIRIN BuddyAI Project」を始動 | キリンホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([AVILEN、キリンホールディングスに生成 AI 研修を提供 ~社員の生成 AI 活用スキルを向上し月 2,200 時間の労働時間削減に成功~ | NEWS\(ニュース\) | 株式会社 AVILEN](#)) ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#)) ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#)) ([ギブリー、サントリーグループの生成 AI 活用を支援。グループ会社社員の専用 ChatGPT デイリー利用者数が 2 倍に増加。 | 株式会社ギブリーのプレスリリース](#)) ([サントリー食品、生成系 AI・文章生成 AI を用いて「C.C.レモンの擬人化キャラクター」を制作](#))(本文中に出典箇所を明記)。